

平成19年度 傾斜的研究費 (特定) (全学分) (戦略分・公募分) 研究報告書

研究費区分

(公募分) ①都市形成に関わる研究

研究代表者所属	都市教養学部理工学系 生命科学コース	フリガナ 研究代表者氏名	カチ ナオキ 可知 直毅	職	教授
研究分担者所属	都市教養学部人文社会系	研究分担者氏名	福田 千鶴	職	准教授
	都市教養学部法学系		酒井 享平		教授
	都市教養学部理工学系		鈴木 惟司		准教授
	都市教養学部理工学系		加藤 英寿		助教
	都市環境学部		石野 久弥		教授
	都市環境学部		山崎 公子		助教
	オープンユニバーシティー		ロング ダニエル		准教授
	都市環境学部		岡 秀一		准教授
	都市環境学部		鈴木 毅彦		准教授
	都市環境学部		菊地 俊夫		准教授
	人文学部		文野 洋		助教
	健康福祉学部		福士政広		教授
	健康福祉学部		関根紀夫		准教授

研究課題名	小笠原における人と自然の共生をめざした学際的総合研究
研究実績の概要 (600~800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)	<p>本研究は、人文社会科学と自然科学の研究手法を融合することにより小笠原の人文社会・自然の独自性を科学的に解明し、世界に類をみない自然を有する小笠原において、人はどのように自然と共生すべきかについて提言することをめざした学際的総合研究である。</p> <p>小笠原は、東京都に属しながら過去に一度も大陸と陸続きになったことがない海洋島であり、独自の生物進化がおこった生態系である。このような生態系は、学術的な意義に加え、エコツーリズムのための自然資源として、また環境教育の場としても重要である。そのため、東京都は小笠原の自然を保全しつつ、それを小笠原振興の基盤として積極的に利用することをめざして、世界自然遺産登録も視野にいれつつ「東京都版エコツーリズム」や「東京都レンジャー制度」などの事業を展開している。しかし、これらの事業の多くは、小笠原の自然環境の保全と利用に着目したものであり、小笠原の社会や文化史的な独自性についてはほとんど考慮されていない。そこで、本研究では、人と自然の持続的な共存をめざした『小笠原における自然・文化の共生』をキーワードに、首都大学東京の文系・理系の研究者の協力・連携により、小笠原の人文社会・自然両面における独自性を総合的に把握し評価すること目的に以下の研究を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小笠原の自然再生の障害となっている外来植物の生態を調査し、それらによる在来植生に対する影響を緩和する手法を開発した。 2. 小笠原の自然再生のための基礎資料とするため、鳥類を含む陸上脊椎動物相の歴史の変遷を調査した。 3. 人為的な植栽がもたらす遺伝的攪乱の影響を調査し、在来植物集団の遺伝的構造に配慮した植栽のあり方について検討した。 4. 小笠原における水環境と生活水の循環過程について調査し、人の生活基盤としての水環境の持続可能性についていくつかのシナリオに基づいて検討した。 5. 小笠原住民へのヒアリングや現地調査などにより、小笠原の文化を特徴づけている言語文化の歴史性を明らかにした。 6. 小笠原の気候・気象環境の経年変化の解析および地形・地質の調査に基づき、小笠原の社会・文化の基盤となっている自然環境の特質を抽出した。 7. 小笠原における自然ツーリズムに関する基礎情報を収集し、あわせてエコツアー参加者の環境学習過程とツアープログラムについて評価した。 <p>上記の成果の一部は、小笠原研究年報31号に報文として発表した。</p>

平成19年度 傾斜的研究費 (特定) (全学分) (戦略分・公募分) 研究報告書

学会発表 (発表題目、発表大会名、年月を記入)
<p>畑憲治・鈴木準一郎・可知直毅 (2007) 小笠原の無人島における自然再生：ノヤギ駆除後の植生変化と外来樹種ギンネムの侵入. 首都大学東京バイオコンファレンス2007 (首都大学東京国際交流会館)</p> <p>Hata, K., Suzuki, J-I, Kachi, N. & Kato, H. (2007) Spatial distribution of an alien shrub species in an oceanic island after the eradication of feral goats depends upon distances from its seed source and structure of herbaceous vegetation. International Symposium on "Impacts of invasive alien species on biodiversity and mitigation of fragile ecosystems in the oceanic Ogasawara (Bonin) Islands" (Tokyo)</p> <p>Kachi, N. (2007) Impacts of invasive alien plants on biodiversity and their management on oceanic Ogasawara (Bonin) islands. International Symposium on "Impacts of invasive alien species on biodiversity and mitigation of fragile ecosystems in the oceanic Ogasawara (Bonin) Islands" (Tokyo)</p> <p>畑憲治・加藤英寿・可知直毅 (2008) 小笠原の外来種モクマオウが優占する森林の林床における在来植物の群集構造. 日本生態学会第55回大会 (福岡)</p> <p>山崎公子・小泉明・稲員とよの・荒井康裕・菊池聖司 (2007) 離島における浄水発生土量の予測-小笠原父島における事例研究-. 日本水道協会第58回全国水道研究発表会 (釧路)</p> <p>山崎公子・小泉明・大塚宏幸 (2008) 小笠原母島における植物による貯水池保全. 日本水環境学会第42回年会 (名古屋)</p>
論文発表又は著書発行 (発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入)
<p>藤沼潤一・畑 憲治・可知直毅 (2008) 小笠原諸島における外来木本種モクマオウの薬剤による故殺実験. 小笠原研究年報, 31, 19-29</p> <p>ダニエル・ロング・磯野英治・塚原佑紀 (2008) 小笠原諸島の欧米系島民に見られる語アクセントの型およびその世代差. 小笠原研究年報, 31, 31-40</p> <p>福土政広・細田正洋・杉野雅人・南一幸・古川雅英・下道國 (2008) 小笠原母島における貯水池の水質浄化に関する実験的研究. 小笠原研究年報, 31, 59-64</p> <p>山崎公子・小泉明・大塚泰永・大塚宏幸 (2008) 小笠原母島における貯水池の水質浄化に関する実験的研究. 小笠原研究年報, 31, 65-75</p> <p>常木静河・村上哲明・加藤英寿 (2008) 小笠原産タブノキ属植物の形態変異について. 小笠原研究年報, 31, 77-89</p>